

第4章 めざす多文化共生社会の姿と行動目標

1 基本目標と滋賀県がめざす多文化共生社会の姿

(1) 基本目標

滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などのちがいかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる地域社会を目指す。

(2) 滋賀県がめざす多文化共生社会の姿

県民一人ひとりが、国籍や民族などのちがいかかわらず、異なる生活習慣や文化、価値観を認め合い、同じ地域社会で共に生き、共に支え合う担い手として対等な関係を築くことを目指しながら、様々な活動に共に参加し、協力することにより、多様性を生かした新たな価値を創出し、地域の社会や経済がより一層活性化し、発展していく社会。

○国籍や民族などのちがいかかわらず、同じ地域社会で共に生き、共に支え合う関係があると意識している。

国籍や民族などが自分とはちがっていたとしても、同じ地域の中で共に生き、支えあう関係であるという意識を持つことが、多文化共生社会を作っていく始まりになる。

○誰にとっても分かりやすい情報が、届けたい人に伝わっている。

外国人に情報を伝えるために大事なことは、その情報を分かりやすくすること。そして、外国人が分かりやすい情報は、すべての人にとっても分かりやすい。

○デジタル技術を活用して、相手の状況に合わせてコミュニケーションを図っている。

言語が異なる相手でも、「やさしい日本語」で会話したり、アプリケーションで翻訳したり、タブレットを通じた通訳サービスを介したり、様々な方法でやり取りする。

○外国人が安心して暮らし働けることで、誰もが住みよい社会となっている。

外国人が安心して暮らせる社会づくりを目指す取組は、すべての人にとって安心できる社会づくりにもつながっている。

○誰もが学ぶことができる社会が、共生社会を未来へとつないでいく。

子どもも大人も、すべての人が学べる環境を整え、誰もが自分の未来のために進むことができるようにする。それは、すべての人が共に生きられる未来へとつながる。

2 行動目標と推進イメージ

(1) 5つの行動目標と10の施策の方向性

基本目標や滋賀県がめざす多文化共生社会の姿を実現するために、すべての人が取り組む、次の5つの行動目標を柱として、10の施策の方向性により本県における多文化共生推進の施策を展開します。

行動目標1 多文化共生意識の高揚と活力ある地域づくり

偏見や差別の解消を図るとともに、相互理解の促進と、それぞれの強みを生かした活力ある地域づくりに取り組みます。

- (1) 多文化共生意識の高揚
- (2) 多様性を生かした活力ある地域づくり

行動目標2 ところが通じるコミュニケーションの促進

すべての県民が、生活に必要な情報を入手でき、地域社会で円滑なコミュニケーションを図れるよう取り組みます。

- (1) 地域における情報の多言語化
- (2) 日本語および日本社会についての学習機会の提供

行動目標3 安心して暮らせる生活環境の整備

すべての県民が、生活サービスを安心して利用でき、安全に暮らすことができる環境を整備します。

- (1) 安心して暮らせる居住支援
- (2) 安心して利用できる保健・医療・福祉体制の整備
- (3) 災害時への対応
- (4) 生活安全における支援の充実

行動目標4 働く場での活躍

地域経済や社会を支える貴重な担い手として、就労を目的に来県する外国人を円滑かつ適正に受け入れるとともに、すべての県民が働く場で活躍できるよう支援します。

- (1) 円滑かつ適正な受入れと働く場での活躍

行動目標5 次世代を育成する教育および保育の充実

国籍や民族などのちがいかかわらず、誰もが等しく教育および保育を受けられる環境を整備し、未来を拓く心豊かでたくましい人づくりに取り組みます。

- (1) 教育および保育環境の整備

(2) 推進イメージ

基本目標 「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などのちがいにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる地域社会を目指す。」

めざす姿

滋賀県がめざす多文化共生社会の姿

国籍や民族などのちがいにかかわらず、同じ地域社会で共に生き、共に支え合う関係であると意識している。

誰にとっても分かりやすい情報が、届けたい人に伝わっている。

デジタル技術を活用して、相手の状況に合わせてコミュニケーションを図っている。

外国人が安心して暮らし働けることで、誰もが住みよい社会となっている。

誰もが学ぶことができる社会が、共生社会を未来へとつないでいく。

